再延長 江陵制す

（6月30日）

◇Cブロック▽1回戦

江陵	1	1	1	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	2		4
帯農	0	0	1	0	0	2	1	0	0	0	0	0	0	0	0		6

（延長十二回）

▽三塁打＝佐藤勇（江）大盛、白木（帯）

▽二塁打＝阿部聡（江）大盛（帯）

江陵は4―4の同点で迎えた延長十二回、伏見の右前打に山本の犠打、代打井下の中前打などで2死一、三塁から、佐藤勇の左中間三塁打で2点を勝ち越し。これが決勝点となった。

江陵は前日とは変わって序盤に適時打や犠飛が出て3点をリード。一時勝ち越されたが、七回に平井の四球と山本の左前打に犠打、古谷の内野ゴロですぐに同点に追いついた。

エース古谷は疲れから球に切れはなかったが、要所では三振を奪いにいく力強さを見せて10奪三振。終盤から緩い球を増やし、打たせる投球も見せた。

帯農はエース小林が得意の変化球を武器に、連打を1度許しただけ。守備も前の試合から全27㍍無失策で支え、すきがなかった。打線も3点を追う展開となりながら甘い球を逃さず、五回2死一塁から大盛の右越え三塁打を含む3連打で同点に追いついた。六回にも2死走者なしから白木、前田の連打が出てこの試合初めて勝ち越す粘りを見せたが、追いつかれた後の終盤の得点機で再度押し切れなかったのが響いた。

【江　陵】

		打	安	点	振	球
②	山本	5	2	0	1	0
⑧	安藤	3	1	0	0	0
H	井下	1	1	0	0	0
9	工藤	0	0	0	0	0
①	古谷	5	1	1	0	1
③	佐藤勇	6	4	4	0	0
⑦	阿部航	5	0	0	1	0
⑤	阿部聡	5	3	0	0	0
④	長尾	4	0	0	2	1
⑥	佐藤慶	4	0	1	0	0
⑨	榎本	2	0	0	0	0
H	平井	0	0	0	0	1
9	8伏見	2	1	0	1	0
犠	盗	併	残	失		
5	0	2	8	2		
		42	13	6	5	3

【帯　農】

		打	安	点	振	球
⑧	大盛	6	3	1	2	0
⑦	舟田	6	1	1	1	0
⑨	草森	5	0	0	1	1
⑤	岩田	5	3	0	1	0
②	小椋	4	0	0	1	0
③	白木	4	1	0	0	1
④	前田	5	1	1	0	0
⑥	平賀	5	0	0	2	0
①	小林	5	2	0	2	0
犠	盗	併	残	失		
1	1	1	8	0		
		45	11	3	10	2

	回	者	球数	安	振	球	責
古谷	12	48	170	11	10	2	3
小林	12	50	177	13	5	3	5

尊敬抱き 意地の投げ合い

最後のあいさつは勝者と敗者が互いに歩み寄り、たたえ合った。2日連続の延長戦で計27㍍、5時間59分の熱戦は、江陵が逆転でものにした。

再びエースの投げ合いとなった。江陵のマウンドには「無理をさせたくなかったが、彼と3年生の気持ちを考えて」という谷本献悟監督に送り出された2年生左腕・古谷優人。帯農のマウンドには「3年生最後の夏は自分しかいないという気持ちがあった」と大久保聡彦監督が送り出した技巧派右腕の小林天道（3年）。互いに尊敬の念を抱きつつ、意地の投球を披露した。

先に小林がつかまった。コースを突いたが球が浮いたところを痛打された。古谷も変化球の制球が甘く、中盤に連打を浴びた。共に疲れは顔に出なくても球威に表れた。それでも前日から支えてくれたバックの堅守を信じて、捕手のミットを目がけて腕を振った。

【Cブロック1回戦・江陵―帯農】延長12回2死一、三塁、江陵の4番・佐藤勇生が左中間を破る長打を放ち、三塁ベースに滑り込む。2点適時打の決勝点となった

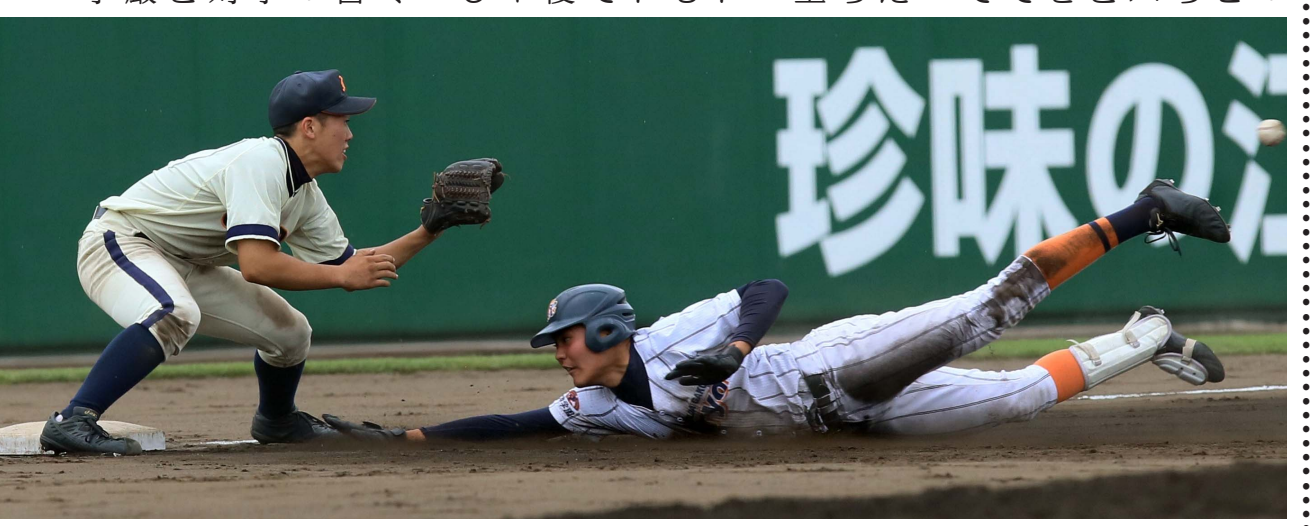
江陵・古谷、帯農・小林

互いにエールも送り合った。「小林さんにナイスピッチャーと声を掛けてもらった。尊敬し、いいライバルと思いながら投げた」と古谷。小林も「古谷も声を掛けてくれたので3年間で一番楽しく投げることができた」と気力が増した。

江陵が2点をリードした後の十二回裏は、「ここからまた勝負」と再びギアを上げた古谷が仁王立ちした。小林との対決ではカウント3―2から逆球となったものの、ナチュラルシュート気味の威力のある外角球で空振り三振に切った。最後の打者も得意のスライダーで空振り三振に。雄たけびを上げて勝利を喜んだ。

「3年生と1日でも多く野球をやりたい」という古谷の願いはまたもかなった。試合後のあいさつで小林ら帯農ナインから「絶対に北大会に行ってくれ」と託された思いを背負い、厳しい日程となった今支部予選を勝ち抜いていく。

【Cブロック1回戦・江陵―帯農】延長12回2死一、三塁、江陵の4番・佐藤勇生が左中間を破る長打を放ち、三塁ベースに滑り込む。2点適時打の決勝点となった



不振の主砲 最後に援護

江陵・佐藤

○…前日は6打数1安打と不振だった江陵の主砲・佐藤勇生（ゆうせい・3年）が、決勝打を含む4安打4打点の活躍。「古谷が頑張っていたので少しでも楽にさせたいと思っていた」と笑みを浮かべた。

延長十二回の好機だった。「来た球を打つだけ」。初球はアウトコースいっぱいのストレートだったが、身長190㌢、長い手足を持つ佐藤のバットは軽く届き、打球は左中間を抜けていった。美唄市出身。谷本献悟監督が就任前にコーチをしていた札幌新琴似リトルシニアの教え子。不振を乗り越え、昨秋以来のレギュラー番号を獲得。4番にも昨夏以来の復帰となった。「（江陵入学は）自分の決めた道。やり抜くしかないと思っていた。これからもチームのため、古谷のために頑張りたい」。公式戦でようやく見せた主砲らしい活躍は、強敵との次戦に向け大きな自信となった。

「気持ち」の人間

江陵・谷本献悟監督の話　私の監督就任時に練習試合の声を掛けてくれた尊敬する大久保監督とこのような試合ができてうれしい。古谷は「気持ち」で生きている人間。「3年のために」と投げてくれた。

素晴らしい試合

帯農・大久保聡彦監督の話　勝負には勝ち負けがあるからしょうがない、素晴らしい試合をしたと言ってあげたい。負けたのは、きのうの試合で勝たせてあげられなかった私の責任。古谷君は最後まで勢いのある球を投げていた。

かちまいスポーツ
記録の速報は▶kachimai.mobi
写真がほしい▶0120-25-9410